



## 重層的文化

日本では、古くから神々に対する信仰が存在するが、さらに、仏教の信仰も根づいている。今でも古い家では、神棚と仏壇が両方ある場合が少なくない。日本人は長い間、日本古来の神と、仏教の仏とをあまり明確に区別せずに、一緒に信仰してきたのである。そこには宗教間の対立をなくそうとする知恵が見られる。

宗教だけにかぎらず、古い文化と新しい文化とが重なりあって共存していることは、日本の文化全般の特徴でもある。たとえば、室町時代以来の能・狂言、江戸時代以来の歌舞伎、明治以来の西洋的な近代演劇などが、現在でも共存し、それぞれファンをもっている。

このように、過去の文化を捨てずに温存し、外来の文化を排斥せずに包み込んで、多様な文化が共存しているあり方を、和辻哲郎は日本文化の「重層性」とよんでいる。

## 「清き明き心」の伝統

古代の日本人は、悪というものを内面的なものと考えずに、外から心や体に付着するものと考えた。したがって、それは払い落とす行為としての「はらい（祓い）」や、水で洗い清める行為としての「みそぎ（禊）」などによって取り除くことができるものとされた。

そのようにして清められた心は、自然の清らかさに近いものだと考えられた。そして、底まで透き通ったような心の状態を古代の人々は「清き明き心」とよんだ。それは、自然と一体となった心であるとともに、人とも分け隔てのない心である。

そうした心を理想として追い求めることが、その後の日本人の倫理観のベースとなったともいえる。日本人は、万人が従うべき客観的なルールを問題にするというよりも、他者に対して隠しだてをしないということを倫理の基本としたのである。

### Tanaka ……コラム

#### あなたの宗教は？

「あなたは何か宗教を信じていますか？」という質問をすると、多くの日本人は無宗教と答えます。しかし、それは宗教というものを「創唱宗教」（開祖がいて体系的な教義や聖典のある宗教）としてしか考えていないからです。しかし、「民族宗教・自然宗教」という観点から見れば日本人は大変宗教的な人たちだといえるでしょう。

現在でも多くの人が、初詣に行き、夏祭りに参加するのはそのことのよい証拠です。